

2019 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
人間健康学部 人間健康学科	准教授	渡辺 弥生
最終学歴	学 位	専 門 分 野
愛知医科大学大学院看護学部	修士	老年看護学

I 教育活動

○目標・計画

(目標)

- ・「真に信頼して事を任せうる人格の育成」を念頭に教科の目標の達成および資格取得を促す。
- ・学生の受講態度がよくなり、学習意欲が高まり、関心のもてる講義を展開し、知識の定着を目指すとともに講義への出席率を高める。
- ・人間健康学部で学ぶ意味は健康に毎日活動することであり、健康観を育み、知識を高める。
- ・「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」のコンセプトを意識し一人一人の学生の思いを尊重し、目標が見えてくるよう関わることで退学の防止をし、将来の目標が見えるようにする。
- ・学生に対してユーモアや親しみやすさを持ち、教員が「真面目」に取り組むことで学生にも自ら「真面目」に取り組む姿勢を持ってもらえるようにまた社会に出て恥ずかしくない態度の育成を目指し関わる。
- ・「子弟を教育するは、私事に非ず。天に事（つか）うるの職分なり」を念頭に自らが謙虚にまじめに教育に専心する。

(計画)

<基礎演習 I II>

この科目は対象が 1 年生であり、大学生活に適応し、大学での学び方を学ぶ。学生は入学し、初めての必修科目としてこの演習に参加する。大学では自主自立であり、単位習得には自己の計画的な取り組みが必要であることの自覚を促す。図書館の活用などできるよう進めていく。面接など行い、大学生活に慣れるよう促し、困ったことがあれば相談されるように努めたい。

<総合演習 I II>

この科目は 2 年生が対象である。内容は家庭看護とし、自己の健康管理また健康を害した場合の対応、家族（小児～高齢者）への家庭での看護を学ぶ。バイタルサインの測定や救急処置など実習を取り入れ、技術教育も行う予定である。2 年生は将来に向けて考えていく必要がある一方目標を見失う時期でもあるため、一人一人の思いを引き出せるよう個人面接も取り入れる。3,4 年にむけレポート作成やディスカッション等実施し、基礎的な学びを促す。

<専門演習 I II>

今年度よりこの科目を受け持つ。専門演習では学生の興味を引き出し、早い段階で研究テーマを出せるようにし、自ら文献検索や情報を取得し、問題解決に向けた学びができるよう、個別に関わっていききたい。また 4 年のゼミ論、卒論準備のため研究の手法を学ばせていききたい。自ら疑問を解決できるよう、ディスカッション、発表など段階的な取り組みをし、達成感をもってもらえるような授業展開を行いたい。

<健康科学概論>

この科目の対象は 1 年生（一部他学年）である。今年度から科目名が変更されたためよりエビデンスを重視した内容とする必要がある。

健康であることの身体的側面、精神的側面の状況を科学的に述べていききたい。また社会的側面

として健康がもたらす人間の幸福を念頭に健康が一人の幸せにとどまらず社会に影響することを伝える。

健康に関心がもてるよう、また健康管理を実践し、将来的に指導・アドバイスができるよう、基礎的内容から活用できる内容とする。一方通行ではなくコミュニケーションを図り進める。

<環境保健論>

この科目は3・4年生が主たる対象である。1,2年で履修した科目から知識を想起させ、一方通行な講義とならないようにしていきたい。

環境は地球規模から身近なことまで多岐にわたる。基本的な環境の知識を持ちながら個人の健康への影響を考え、今後将来を担う世代として考えられるような内容としたい。特に健康を維持するうえで一人一人の環境対策が大切なことから身近な対策について意識させたい。

講義が中心の教授方法となるがDVDの活用や個人の考えが述べられる機会をもつなど主体的な意見交換ができる機会やレポートを課すなど積極的な学びとなるよう講義を工夫していく。

<医療概論>

医療への学生の関心を確認し医療の歴史、医療の概念、医療の現状と問題点について内容を精選して教授する。

現代の医療は進歩を遂げているので先進医療について伝えるとともに、チーム医療であることから各職種の役割を学び、予防からリハビリテーションまで健康で積極的な予防医療から家族が病気になった時の活用の仕方など将来その知識が役に立つような学びとしていきたい。病気の経験が少ない学生が多いため、医療活動の場面をDVDなどを活用し臨場感を持たせ、興味や関心を高め、一人の国民として何ができるのか考える機会としていきたい。

<養護概説>

児童・生徒の健康について学ぶ。学生は高校まで自ら養護を受けているが、そのことに気づかせ、どんな場面で守られてきたのかディスカッションなど取り入れ、主体的に考えさせ、学ばせたい。また昨今は幼児・児童など子供を取り巻く環境が厳しく、貧困や虐待、環境の格差など問題の背景を考えさせ、学生自身が将来の子育てに役立つ内容としていく。

<看護学>

看護を専門教育としてではなく、一般の学生に対して講義することは、興味深い。看護の現状と問題、歴史、さらには日頃から看護の視点で健康を維持するための方策について学んでもらいたい。看護は身体、社会、心の3側面から対象をとらえ、3側面から解決策を見出していく。このことは看護する場面だけでなく、セルフケアを行うという面でも有効である。自らの健康をセルフケアするための知識や技術を教授していく。看護の原理である、他人を思いやること、気づき、環境を整えることで疾病予防ができることを学生とともに新しい視点で学びたい。この科目でも場面設定しグループワークなど行いたいと考える。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

医療概論、養護概説、環境保健論、基礎演習Ⅰ、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ

（後期）

健康科学概論、看護学、基礎演習Ⅱ、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ

○教育方法の実践

計画に沿って進めた。前期の医療概論は医療の現状をDVD視聴し、関心を高めた。養護概説は受講者が多く、予定していたロールプレイやグループワークが思うように進められないなどの問題があったが、子供の様子が理解できるようDVD視聴を行ない効果的であった。環境保健論は、新聞記

事などを活用し、自分の身の回りで起こっている環境問題を考えさせるように講義を行った。またレポートとしてまとめ関心を高めた。総合演習は、各自が課題を発見し、主体的に学べるよう指導を行った。専門演習では、研究課題の発見に向けディスカッション、グループワークを前後期とも積極的に行った。後期には全員が卒論に向けたテーマを見つけることができた。フィールドワークは献血と血液センターの見学を行い医療への関心を高めた。後期の健康科学概論は受講者が多く一人一人へのかかわりは難しかったが、集中した講義姿勢を見ることができた。人数の多い講義では、出席は小テストで確認し、講義の内容によってはレポート課題を課した。受講者が多い時の座席は指定席にし、講義の中盤で交代するなど不公平感がないように工夫した。看護学は、バイタルサインの測定、車いすの使用方法など実習を行った。

○作成した教科書・教材

講義内に使用するノート形式の資料を作成した。

○自己評価

講義は毎回ノート形式の資料を作成したため、テストの持ち込み資料もしっかり記述されており、事後の学習はしやすかったのではないかと考える。ノート形式の資料は、居眠り防止に役立ったと考える。授業は静かに受講しており、時にスマホを見る学生はいた。机の間を回るようにし、集中するよう工夫したが、十分とはいえない面もあった。学生のテスト結果からある程度の理解はしていたように考える。またテスト以外に課したレポートも提出期限を守り、積極的な姿勢が見られた。一部休みが多く途中で受講をやめてしまう学生が目立つ科目もあった。朝、一限の講義は遅刻や居眠りも見られたため出席意欲を高める工夫が必要と感じた。養護や看護は実習も取り入れたが、実習までの待ち時間が長く、十分な指導ができない場面があった。少人数化などさらに工夫していく必要がある。ゼミはリタイアする学生もなく、十分な声掛けができたと考える。内容については学びが深い学生とそうではない学生に差があると感じた。学生を大切にする、村長する抗議を心掛けた点は評価できると考える。

II 研究活動

○研究課題

- ・医療概論を受講している本学学生の健康観
- ・一般学生が看護学を学ぶことの意味（仮）

○目標・計画

（目標）

- ・医療概論を受講する学生に対し、健康観について調査するための文献検討を行う。
- ・医療概論を受講する学生に対し、健康観について調査する。
- ・基礎データとして後期に行う看護学受講する学生にこの科目を学ぶ目的や看護へのイメージを調査する。

（計画）

1. 文献検討 倫理委員会への研究計画提出 調査用紙作成
2. 前期授業期間に医療概論において調査実施 夏季休業中にデータの分析など実施
3. 後期授業期間中に看護学において調査実施 春季休業中にデータ分析
4. 紀要または学会投稿のための論文作成
5. 学会参加 日本看護学教育学会 日本看護歴史学会

○2012年4月から2020年3月の研究業績（特許等を含む）

(著書)

(学術論文)

- ・ 渡辺弥生、竹下美恵子 「人間健康学部で「医療概論」を受講する学生の医療イメージ」 東邦学誌第 48 巻第 2 号 2019
- ・ 渡辺弥生、稲葉太香子 「一般大学生の看護イメージ—看護学の初回講義後の調査—」 愛知県看護教育研究会第 23 回 2020
- ・ 渡辺弥生、野口健太、麻績恵 「看護を学ぶ社会人学生の臨地実習での思い」 愛知県看護教育研究会第 22 回 (p23~29) 2019
- ・ 渡辺弥生、野口健太、柴田竹晴 「基礎看護技術テストにおける模擬患者体験をした卒業生の思い」 愛知県看護教育研究会第 21 回 (p32~37) 2018
- ・ 渡辺弥生、野口健太、三井美智 「看護専門学校における学生への欠席に対する指導 A 県内看護専門学校の教務主任の調査」 日本看護学会 (教育) (p43~46) 2018
- ・ 野口健太、島田美奈、渡辺弥生、井本英津子 「看護専門学校における新人看護教員のストレス要因と支援状況 講義・演習に焦点をあてて」 愛知県看護教育研究会第 19 回 (p45~52) 2016
- ・ 野口健太、林由利江、島田美奈子、渡辺弥生 「看護専門学校における新人看護教員のストレス要因と支援状況 臨地実習に焦点をあてて」 愛知県看護教育研究会第 18 回 (p35~43) 2015
- ・ 井本英津子、島田美奈子、渡辺弥生 「看護専門学校における海外研修旅行の取り組み 旅行後のアンケート分析」 愛知県看護教育研究会 第 18 回 (p18~27) 2015
- ・ 野口健太、島田美奈子、渡辺弥生、井本英津子 「看護専門学校におけるケーススタディの学習方法の現状」 愛知県看護教育研究会 第 15 回 (p54~60) 2013
- ・ 青木由利江、井本英津子、稲葉太香子、渡辺弥生 「看護技術チェックを受ける学生の思い」 愛知県看護教育研究会 第 15 回 (p21~31) 2013

(学会発表)

- ・ 渡辺弥生、竹下美恵子 人間健康学部で「医療概論」を履修する学生の—医療イメージ— 第 28 回 愛知県看護教育研究会
- ・ 渡辺弥生、野口健太、麻績恵 「看護を学ぶ社会人経験者の臨地実習での困難感 医療職の常識と一般職の常識」 日本看護学会 (看護教育) 2018
- ・ 渡辺弥生、野口健太、麻績恵 「看護を学ぶ社会人経験者の臨地実習での困難感 実習評価に焦点をあてて」 愛知県看護教育研究会第 7 回 2018
- ・ 渡辺弥生、野口健太、三井美智 「看護専門学校における欠席状況に関する調査 欠席を少なくするための取り組み第 1 報」 愛知県看護教育研究会 2016
- ・ 渡辺弥生 「病棟看護師の高齢者への退院支援に関わる行動と高齢者理解とその関連要因」 日本看護学会 (管理) 2016

(特許)

(その他)

- ・ 渡辺弥生、今井範子 「3 年課程カリキュラムにおける実習調整と実習指導の進め方 基礎看護学編」 看護人材教育. Vol. 7. No5. 48-58. 日総研. 2011
- ・ 渡辺弥生、今井範子 「3 年課程カリキュラムにおける実習調整と実習指導の進め方 精神看護学編」 看護人材教育. Vol. 8No 1. 125-134. 日総研. 2011
- ・ 渡辺弥生、今井範子 「3 年課程カリキュラムにおける実習調整と実習指導の進め方 老年看護学編」 看護人材教育. Vol. 7No6. 128-134. 日総研. 2011

- ・渡辺弥生 「学内で学生が抱える問題とその対応方法 学生が欠席しないための取り組み」 看護人材教育. Vol. 12No2. 85-91. 日総研. 2015

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

○所属学会

愛知県看護教育研究学会、日本看護教育学会、日本看護学会、日本老年看護学会

○自己評価

・医療概論を受講する学生に対し、健康観について調査するための文献検討を行ない、健康観の調査を行ったため 2020 年には論文としてまとめていく予定である。

・基礎データとして後期に行う看護学受講する学生にこの科目を学ぶ目的や看護へのイメージを調査するという目標については科目の 1 回目講義後と 14 回目の講義後「看護イメージ」の調査を行った。（倫理委員会に申請）その 1 回目講義後のデータは論文としてまとめた。愛知県看護教育研究学会に投稿した。

・医療概論の受講学生には「医療イメージ」についての調査を行ったため、人間健康学部で「医療概論」を履修する学生の医療イメージ」として学会発表し、本学紀要に投稿した。

本年の研究活動は、講義を受ける学生のもつイメージを確認し講義を進めたいと考えたことから、一般学生の医療や看護のイメージを理解するための授業準備の目的もあった。今後は「看護のイメージが講義前後で変化があったのか」「医療概論受講者の健康観」について論文としてまとめる予定である。地道な活動ではあるが努力はできたと考える。

III 大学運営

○目標・計画

（目標）

学生委員会などのメンバーとして積極的に活動する。（学生委員会、保健・学生相談、東邦 STEP 運営、人権問題）

人間健康学部の中での役割を認識し、主体的に行動する。（中退防止 WG キャリア科目）

（計画）

- ・学生会委員会など 4 委員会に、積極的な意識で参加し、学内での役割、活動について理解し、貢献する。
- ・人間健康学部の一員として主体的に活動する。
- ・分担された各種行事や指示を受けたことに関し責任をもって遂行していく。
- ・他の教員とコミュニケーションを図り信頼されるように努める。

○学内委員等

学生委員会委員、東邦 STEP 運営委員会委員、人権問題委員会委員

○自己評価

学生委員会では、部活動やサークル活動について議論されたがあまりわからないこともあった。禁煙指導や入寮生の面談などの活動を行った。参加自体は積極的に行ったが理解できていないこともあった。

保健・学生相談委員会は、積極的に参加し問題のある学生の状況についても意見を述べた。来年度の講師依頼を行った。他の 2 委員会にも参加し意見を述べた。初めての委員会ばかりであったが、依頼があったことは、誠実に行った。

学部の業務についても誠実に行った。

IV 社会貢献

○目標・計画

(目標)

看護専門教育に関わり看護師育成に貢献することで学内の活動に設けて生かす。
愛知県看護教育研究会理事として学会などの運営に関わることで広く研究活動を行う。

(計画)

前期【看護研究】の講義の依頼をされているため、許可を得て実施
後期【老年看護学概論】の講義の依頼をされているため、許可を得て実施
愛知県看護教育研究会理事会 総会 学会の運営
論文の査読者として活動する。

○学会活動等愛知県看護教育研査読委員

日本看護学教育学会参加
日本看護教育歴史学会参加
日本老年看護学会：災害時のトリアージ研修参加
愛知県看護教育研究会 理事 査読委員

○地域連携・社会貢献等

名古屋市臨地実習指導者研修 講師
まつかげ看護専門学校老年看護学概論 講師

○自己評価

学内の業務に支障をきたさないよう活動した。特に問題はなかった。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

なし

VI 総括

1年目では、多人数の講義に難しさを感じたが、2年目では、スマホの持ち込みや居眠りなど学生の受講態度をよくするよう工夫したことは効果的であった。学生を信じたい面と教員の甘さを見ているなという面があり、今後も毅然とした態度で学生には接していきたい。愛知東邦大学の卒業生として、社会に出て恥ずかしくない態度の育成も重要と考えるので細かく声掛けしたりしながら信頼を得た上で関わりをしていきたい。その点では顔見知りになった学生や、ゼミ学生とのコミュニケーションは良好で学習に良い影響を与えることができたと考える。私の専門である看護学は「相手の立場に立つ」ということを重要としておりどの科目においても他者の立場に立つことを考えさせたいと講義に取り入れており、気持ちは通じている学生もいるように思う。自由と常識ある態度について、学びの中から伝えていきたいと考える。関心をもって理解しやすい講義ということが必須条件となるため、授業準備を今後もしっかり行っていきたい。

研究活動は授業研究のような内容となっているため、このことにこだわらず広く研究疑問を持ち積極的に活動を行いたいと考える。フィールドワークについては見学に終わっているため、献血も取り入れた。もちろん強制ではないが、継続的な活動となるよう検討していきたい。

委員会や学部の内容は慣れると次の課題ということで慣れないうちに変化し、難しさを感じるが情報収集に努め、できることについて積極的に活動していきたい。